

「舗装調査・試験法便覧」正誤表

[2016年10月11日更新]

訂正箇所	誤	正	備考	増刷りに反映 (空欄は6刷以前 で修正済み)
第1分冊				
p.[1]-85 上から12行目	サーミスタ温度計	削除		
P.[1]-95 4.(2)3)	スライダ―と路面が接触しないようにするドラッグポインター…	スライダ―と路面が接触しないようにする。ドラッグポインター…		
P.[1]-156 表-S028・2	⑨標準偏差 $\sqrt{(7)-(6)^2/(8)-1}$	⑨標準偏差 $\sqrt{(7)-(6)^2/(8)-1}$		
P.[1]-169 4.(2)1)	各車線の路肩側レーンマークの外側を基準として設置する。各車線の路肩側レーンマークを基準として設置する。	各車線の路肩側レーンマークを基準として設置する。	繰り返しの部分を削除	
P.[1]-193 4.(3)5)	供試体上面のろ紙の上に軸付き有孔板を敷き、その上に5kgの荷重板を載せる。	供試体上面のろ紙の上に軸付き有孔板を敷き、その上に5kgの荷重板を載せる。		
P.[1]-204 表-S042・1	右下の支持力係数の計算欄	支持力係数=…=0.277/(1.25×10 ⁻³) k ₃₀ =22.2 支持力整数=22.2MN/m ³	2014/08/06追加	7刷りで修正済み
P.[1]-220 3.(4)	質量50Nとする。	重量50Nに相当する質量のものとする。	2012/11/16追加	6刷りで修正済み
P.[1]-220 3.(5)	質量100Nのものが2個、250Nのものが3個とする。	重量100Nに相当する質量のものが2個、250Nに相当する質量のものが3個とする。	2012/11/16追加	6刷りで修正済み
P.[1]-220 3.(7)	容量5000N程度の	引抜き力5000N程度の	2012/11/16追加	
P.[1]-221 図-S045・1	スウェーデン式サウンディング試験機	スウェーデン式サウンディング試験機(手動式の例)	2014/08/06追加	7刷りで修正済み
P.[1]-221 4.(3)	次に100Nのおもりを	次に荷重100N追加させるためのおもりを	2012/11/16追加	6刷りで修正済み
P.[1]-230 上から9行目	しかしながら測定に必要な輪荷重を得るには、荷重車は過積載となり、公道を走行することはできない。したがって測定場所にて荷重調整用原器や砕石を詰めたフレコンバック等を用いて荷重調整を行うことが必要になる。	削除	2016/10/10追加	
P.[1]-232 上から7行目	1) 荷重車の調整 本試験法による輪荷重を満足するためには、荷重車は過積載なるため、測定場所にて荷重調整を行う必要がある。	1) 荷重車の調整 荷重車は最大積載量を超えて使用してはならない。輪荷重調整にあたっては25tダンプトラックあるいは27tトレーラ車などを使用するとよい。また、偏荷重が生じないように積荷し、荷崩れ防止対策を実施する。	2016/10/10追加	
第2分冊				
p.[2]-11 下から1, 2行目 式(A002・1)と式(A002・2)	表乾密度=W _{S1} /(500-W ₁) かさ密度=W _{D1} /(500-W ₁)	表乾密度=W _{S1} ρ _w /(500-W ₁) かさ密度=W _{D1} ρ _w /(500-W ₁)	2014/08/06追加	7刷りで修正済み
p.[2]-12 1行目 式(A002・3)	見掛密度=W _{D1} /(500-(W ₁ -W ₀))	見掛密度=W _{D1} ρ _w /(500-(W ₁ +W _{S1} -W _{D1}))	2014/08/06追加	7刷りで修正済み
p.[2]-12 3行目	ここに、各記号の凡例は、4.(2)に示す	ここに、ρ _w : 常温の水の密度(通常1g/cm ³)、その他の各記号の凡例は、4.(2)に示す	2012/11/16追加	
p.[2]-13 表-A002・1	⑥表乾密度の右欄 ③/(A)-⑤	③ρ _w /(A)-⑤	2014/08/06追加	7刷りで修正済み
p.[2]-13 表-A002・1	⑧かさ密度の右欄 ⑧/(A)-⑤	⑦ρ _w /(A)-⑤	2014/08/06追加	7刷りで修正済み
p.[2]-13 表-A002・1	⑨含水量の右欄の空欄	③-⑦	2012/11/16追加	
p.[2]-13 表-A002・1	⑩見掛密度の右欄 ⑧/(A)-⑤-⑨	⑦ρ _w /((A)-(⑤+⑨))	2012/11/16追加	
P.[2]-14 上から13行目	…試験用ふるい」に定する、…	…試験用ふるい」に規定する、…		
P.[2]-18 1行目	A004 硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験方法 (JIS A1122:2005準拠) Method of Test for Soundness of Aggregate by Use of Sodium Sulfate (referred to JIS A1122:2005)	A004 硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験方法 (JIS A1122:2005準拠) Method of Test for Soundness of Aggregate by Use of Sodium Sulfate (referred to JIS A1122:2005)	2010/02/25追加	
P.[2]-18 14行目	に規定する2.36, 4.75, 13.2, 19.0, 26.5, 31.5, 37.5, 53mm網ふるい。	に規定する網ふるいで、アスファルト舗装用粗骨材では2.36, 4.75, 9.5, 13.2, 19.0, 26.5 -31.5, 37.5, 53mm網ふるい、コンクリート舗装用粗骨材では4.75, 9.5, 16.0, 19.0, 26.5, 37.5mm網ふるい。	2010/02/25追加	
P.[2]-19 10行目	i) 試料は、代表的なものを約2kgを採取する。	i) 試料は、代表的なものを約3kgを採取する。	2010/02/25追加	
P.[2]-19 表-A004・1	ふるいの呼び寸法で区分した各群の粒径の範囲 600μm~300μm 1.2mm~600μm 2.5mm~1.2mm 5mm~2.5mm 10mm~5mm	ふるい呼び寸法で区分した各群の粒径の範囲 600μm~300μm 1.18mm~600μm 2.36mm~1.18mm 4.75mm~2.36mm 9.5mm~4.75mm	2010/02/25追加	
P.[2]-19 20行目	i) 試料は代表的なものを採取し、その質量は骨材の最大寸法に応じて表-A004・2に示す質量を標準とする。 注4) 骨材の最大寸法が40mmを超える場合は、40mmのふるいでふるい分けてふるいを通過したものを試験用の試料とする。 ii) 試料を網ふるい2.36mm, ふるいとどまったものについて、「A003 骨材のふるい分け試験方法」によって、ふるい分け試験を行い、表-A004・2に示す粒径による群に分け各群の百分率を求め、百分率が5%以上となった群だけについて安定性の試験をする。	i) 試料は代表的なものを採取し、アスファルト舗装用粗骨材では試料を2.36mm網ふるいでふるい、コンクリート舗装用粗骨材では4.75mm網ふるいでふるう。ふるいとどまったものについて、「A003 骨材のふるい分け試験方法」によって、ふるい分け試験を行うが、アスファルト舗装用粗骨材では表-A004・2に、コンクリート舗装用粗骨材では表-A004・3に示す粒径による群に分け各群の百分率を求め、百分率が5%以上となった群だけについて安定性の試験をする。	2010/02/25追加	

訂正箇所	誤	正	備考	増刷りに反映 (空欄は6刷以前 で修正済み)																																																																																																												
P.[2]-20 7行目	iii)	ii)																																																																																																														
P.[2]-20 8行目	…各群ごとに表-A004・3に規定する量をはかりとて	…各群ごとに表-A004・2あるいは表-A004・3に規定する量をはかりとて																																																																																																														
P.[2]-20 10行目	iv)	iii)																																																																																																														
P.[2]-20 表-A004・2	<table border="1"> <caption>表-A004・2 骨材の最大寸法と採取試料質量</caption> <thead> <tr> <th>骨材の最大寸法 (mm)</th> <th>採取する試料の質量 (kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>10</td><td>4</td></tr> <tr><td>15</td><td>6</td></tr> <tr><td>20</td><td>8</td></tr> <tr><td>25</td><td>10</td></tr> <tr><td>40</td><td>16</td></tr> </tbody> </table>	骨材の最大寸法 (mm)	採取する試料の質量 (kg)	10	4	15	6	20	8	25	10	40	16	<table border="1"> <caption>表-A004・2 試験に必要な試料の最小質量(アスファルト舗装用粗骨材)</caption> <thead> <tr> <th>ふるい呼び寸法で区分した粒径の範囲 (mm)</th> <th>試料の最小質量 (g)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4.74~2.36</td><td>200</td></tr> <tr><td>9.5~4.75</td><td>300</td></tr> <tr><td>13.2~9.5</td><td>500</td></tr> <tr><td>19~13.2</td><td>750</td></tr> <tr><td>31.5~19</td><td>1000</td></tr> <tr><td>37.5~31.5</td><td>1500</td></tr> <tr><td>53~37.5</td><td>2000</td></tr> </tbody> </table>	ふるい呼び寸法で区分した粒径の範囲 (mm)	試料の最小質量 (g)	4.74~2.36	200	9.5~4.75	300	13.2~9.5	500	19~13.2	750	31.5~19	1000	37.5~31.5	1500	53~37.5	2000	表全体の差し替え 2010/02/25追加																																																																																	
骨材の最大寸法 (mm)	採取する試料の質量 (kg)																																																																																																															
10	4																																																																																																															
15	6																																																																																																															
20	8																																																																																																															
25	10																																																																																																															
40	16																																																																																																															
ふるい呼び寸法で区分した粒径の範囲 (mm)	試料の最小質量 (g)																																																																																																															
4.74~2.36	200																																																																																																															
9.5~4.75	300																																																																																																															
13.2~9.5	500																																																																																																															
19~13.2	750																																																																																																															
31.5~19	1000																																																																																																															
37.5~31.5	1500																																																																																																															
53~37.5	2000																																																																																																															
P.[2]-20 表-A004・3	<table border="1"> <caption>表-A004・3 各群の試料最小質量</caption> <thead> <tr> <th>ふるい呼び寸法で区分した各群の粒径の範囲(mm)</th> <th>試料の最小質量 (g)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>10~5</td><td>300</td></tr> <tr><td>15~10</td><td>500</td></tr> <tr><td>20~15</td><td>750</td></tr> <tr><td>25~20</td><td>1000</td></tr> <tr><td>40~25</td><td>1500</td></tr> </tbody> </table>	ふるい呼び寸法で区分した各群の粒径の範囲(mm)	試料の最小質量 (g)	10~5	300	15~10	500	20~15	750	25~20	1000	40~25	1500	<table border="1"> <caption>表-A004・3 試験に必要な試料の最小質量(コンクリート舗装用粗骨材)</caption> <thead> <tr> <th>ふるい呼び寸法で区分した粒径の範囲 (mm)</th> <th>試料の最小質量 (g)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>9.5~4.75</td><td>300</td></tr> <tr><td>16~9.5</td><td>500</td></tr> <tr><td>19~16</td><td>750</td></tr> <tr><td>26.5~19</td><td>1000</td></tr> <tr><td>37.5~26.5</td><td>1500</td></tr> </tbody> </table>	ふるい呼び寸法で区分した粒径の範囲 (mm)	試料の最小質量 (g)	9.5~4.75	300	16~9.5	500	19~16	750	26.5~19	1000	37.5~26.5	1500	2010/02/25追加																																																																																					
ふるい呼び寸法で区分した各群の粒径の範囲(mm)	試料の最小質量 (g)																																																																																																															
10~5	300																																																																																																															
15~10	500																																																																																																															
20~15	750																																																																																																															
25~20	1000																																																																																																															
40~25	1500																																																																																																															
ふるい呼び寸法で区分した粒径の範囲 (mm)	試料の最小質量 (g)																																																																																																															
9.5~4.75	300																																																																																																															
16~9.5	500																																																																																																															
19~16	750																																																																																																															
26.5~19	1000																																																																																																															
37.5~26.5	1500																																																																																																															
P.[2]-27 表-A005・2	<table border="1"> <caption>表-A005・2 粒展区分における試料の全質量</caption> <thead> <tr> <th>粒展区分</th> <th>ふるい呼び寸法で区分した粒径の範囲 (mm)</th> <th>試料の質量 (g)</th> <th>試料の全質量 (g)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="4">A</td><td>9.5 ~ 16</td><td>1250 ± 10</td><td rowspan="4">5000 ± 10</td></tr> <tr><td>16 ~ 19</td><td>1250 ± 10</td></tr> <tr><td>19 ~ 26.5</td><td>1250 ± 25</td></tr> <tr><td>26.5 ~ 37.5</td><td>1250 ± 25</td></tr> <tr><td rowspan="2">B</td><td>16 ~ 19</td><td>2500 ± 10</td><td rowspan="2">5000 ± 10</td></tr> <tr><td>19 ~ 26.5</td><td>2500 ± 10</td></tr> <tr><td rowspan="2">C</td><td>4.75 ~ 9.5</td><td>2500 ± 10</td><td rowspan="2">5000 ± 10</td></tr> <tr><td>9.5 ~ 16</td><td>2500 ± 10</td></tr> <tr><td rowspan="2">D</td><td>2.36 ~ 4.75</td><td>5000 ± 10</td><td rowspan="2">5000 ± 10</td></tr> <tr><td>37.5 ~ 53</td><td>2500 ± 50</td></tr> <tr><td rowspan="2">E</td><td>53 ~ 60</td><td>2500 ± 50</td><td rowspan="2">10000 ± 100</td></tr> <tr><td>60 ~ 80</td><td>2500 ± 50</td></tr> <tr><td rowspan="2">F</td><td>25 ~ 37.5</td><td>5000 ± 25</td><td rowspan="2">10000 ± 75</td></tr> <tr><td>37.5 ~ 53</td><td>5000 ± 50</td></tr> <tr><td rowspan="2">G</td><td>19 ~ 26.5</td><td>5000 ± 25</td><td rowspan="2">10000 ± 50</td></tr> <tr><td>26.5 ~ 37.5</td><td>5000 ± 25</td></tr> <tr><td>H</td><td>19 ~ 9.5</td><td>5000 ± 10</td><td>5000 ± 10</td></tr> </tbody> </table>	粒展区分	ふるい呼び寸法で区分した粒径の範囲 (mm)	試料の質量 (g)	試料の全質量 (g)	A	9.5 ~ 16	1250 ± 10	5000 ± 10	16 ~ 19	1250 ± 10	19 ~ 26.5	1250 ± 25	26.5 ~ 37.5	1250 ± 25	B	16 ~ 19	2500 ± 10	5000 ± 10	19 ~ 26.5	2500 ± 10	C	4.75 ~ 9.5	2500 ± 10	5000 ± 10	9.5 ~ 16	2500 ± 10	D	2.36 ~ 4.75	5000 ± 10	5000 ± 10	37.5 ~ 53	2500 ± 50	E	53 ~ 60	2500 ± 50	10000 ± 100	60 ~ 80	2500 ± 50	F	25 ~ 37.5	5000 ± 25	10000 ± 75	37.5 ~ 53	5000 ± 50	G	19 ~ 26.5	5000 ± 25	10000 ± 50	26.5 ~ 37.5	5000 ± 25	H	19 ~ 9.5	5000 ± 10	5000 ± 10	<table border="1"> <caption>表-A005・2 粒展区分における試料の全質量</caption> <thead> <tr> <th>粒展区分</th> <th>ふるい呼び寸法で区分した粒径の範囲 (mm)</th> <th>試料の質量 (g)</th> <th>試料の全質量 (g)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td rowspan="4">A</td><td>9.5 ~ 16</td><td>1250 ± 10</td><td rowspan="4">5000 ± 10</td></tr> <tr><td>16 ~ 19</td><td>1250 ± 10</td></tr> <tr><td>19 ~ 26.5</td><td>1250 ± 25</td></tr> <tr><td>26.5 ~ 37.5</td><td>1250 ± 25</td></tr> <tr><td rowspan="2">B</td><td>16 ~ 19</td><td>2500 ± 10</td><td rowspan="2">5000 ± 10</td></tr> <tr><td>19 ~ 26.5</td><td>2500 ± 10</td></tr> <tr><td rowspan="2">C</td><td>4.75 ~ 9.5</td><td>2500 ± 10</td><td rowspan="2">5000 ± 10</td></tr> <tr><td>9.5 ~ 16</td><td>2500 ± 10</td></tr> <tr><td rowspan="2">D</td><td>2.36 ~ 4.75</td><td>5000 ± 10</td><td rowspan="2">5000 ± 10</td></tr> <tr><td>37.5 ~ 53</td><td>500 ± 50</td></tr> <tr><td rowspan="2">E</td><td>53 ~ 60</td><td>2500 ± 50</td><td rowspan="2">10000 ± 100</td></tr> <tr><td>60 ~ 80</td><td>2500 ± 50</td></tr> <tr><td rowspan="2">F</td><td>25 ~ 37.5</td><td>5000 ± 25</td><td rowspan="2">10000 ± 75</td></tr> <tr><td>37.5 ~ 53</td><td>5000 ± 50</td></tr> <tr><td rowspan="2">G</td><td>19 ~ 26.5</td><td>5000 ± 25</td><td rowspan="2">10000 ± 50</td></tr> <tr><td>26.5 ~ 37.5</td><td>5000 ± 25</td></tr> <tr><td>H</td><td>19 ~ 9.5</td><td>5000 ± 10</td><td>5000 ± 10</td></tr> </tbody> </table>	粒展区分	ふるい呼び寸法で区分した粒径の範囲 (mm)	試料の質量 (g)	試料の全質量 (g)	A	9.5 ~ 16	1250 ± 10	5000 ± 10	16 ~ 19	1250 ± 10	19 ~ 26.5	1250 ± 25	26.5 ~ 37.5	1250 ± 25	B	16 ~ 19	2500 ± 10	5000 ± 10	19 ~ 26.5	2500 ± 10	C	4.75 ~ 9.5	2500 ± 10	5000 ± 10	9.5 ~ 16	2500 ± 10	D	2.36 ~ 4.75	5000 ± 10	5000 ± 10	37.5 ~ 53	500 ± 50	E	53 ~ 60	2500 ± 50	10000 ± 100	60 ~ 80	2500 ± 50	F	25 ~ 37.5	5000 ± 25	10000 ± 75	37.5 ~ 53	5000 ± 50	G	19 ~ 26.5	5000 ± 25	10000 ± 50	26.5 ~ 37.5	5000 ± 25	H	19 ~ 9.5	5000 ± 10	5000 ± 10	7刷りで修正済み	
粒展区分	ふるい呼び寸法で区分した粒径の範囲 (mm)	試料の質量 (g)	試料の全質量 (g)																																																																																																													
A	9.5 ~ 16	1250 ± 10	5000 ± 10																																																																																																													
	16 ~ 19	1250 ± 10																																																																																																														
	19 ~ 26.5	1250 ± 25																																																																																																														
	26.5 ~ 37.5	1250 ± 25																																																																																																														
B	16 ~ 19	2500 ± 10	5000 ± 10																																																																																																													
	19 ~ 26.5	2500 ± 10																																																																																																														
C	4.75 ~ 9.5	2500 ± 10	5000 ± 10																																																																																																													
	9.5 ~ 16	2500 ± 10																																																																																																														
D	2.36 ~ 4.75	5000 ± 10	5000 ± 10																																																																																																													
	37.5 ~ 53	2500 ± 50																																																																																																														
E	53 ~ 60	2500 ± 50	10000 ± 100																																																																																																													
	60 ~ 80	2500 ± 50																																																																																																														
F	25 ~ 37.5	5000 ± 25	10000 ± 75																																																																																																													
	37.5 ~ 53	5000 ± 50																																																																																																														
G	19 ~ 26.5	5000 ± 25	10000 ± 50																																																																																																													
	26.5 ~ 37.5	5000 ± 25																																																																																																														
H	19 ~ 9.5	5000 ± 10	5000 ± 10																																																																																																													
粒展区分	ふるい呼び寸法で区分した粒径の範囲 (mm)	試料の質量 (g)	試料の全質量 (g)																																																																																																													
A	9.5 ~ 16	1250 ± 10	5000 ± 10																																																																																																													
	16 ~ 19	1250 ± 10																																																																																																														
	19 ~ 26.5	1250 ± 25																																																																																																														
	26.5 ~ 37.5	1250 ± 25																																																																																																														
B	16 ~ 19	2500 ± 10	5000 ± 10																																																																																																													
	19 ~ 26.5	2500 ± 10																																																																																																														
C	4.75 ~ 9.5	2500 ± 10	5000 ± 10																																																																																																													
	9.5 ~ 16	2500 ± 10																																																																																																														
D	2.36 ~ 4.75	5000 ± 10	5000 ± 10																																																																																																													
	37.5 ~ 53	500 ± 50																																																																																																														
E	53 ~ 60	2500 ± 50	10000 ± 100																																																																																																													
	60 ~ 80	2500 ± 50																																																																																																														
F	25 ~ 37.5	5000 ± 25	10000 ± 75																																																																																																													
	37.5 ~ 53	5000 ± 50																																																																																																														
G	19 ~ 26.5	5000 ± 25	10000 ± 50																																																																																																													
	26.5 ~ 37.5	5000 ± 25																																																																																																														
H	19 ~ 9.5	5000 ± 10	5000 ± 10																																																																																																													
P.[2]-27 表-A005・3	鋼球の全質量 3300±25g	鋼球の全質量 3330±25g	2011/03/17追加	6刷りで修正済み																																																																																																												
P.[2]-34 11行目	20~35kg	20~35g																																																																																																														
P.[2]-41 1行目	A007 粗骨材中の軟石量試験方法 (JIS A1126:2001 準拠) Method of Test for Soft Particles in Coarse Aggregate (referred to JIS A1126:2001)	A007 粗骨材中の軟石量試験方法 (JIS A1126:2001 準拠) Method of Test for Soft Particles in Coarse Aggregate (referred to JIS A1126:2001)																																																																																																														
P.[2]-41 17行目	に規定する2.36, 4.75, 13.2, 19.0, 37.5, および53mm 網ふるい。	に規定する網ふるいで、アスファルト舗装用粗骨材では2.36, 4.75, 13.2, 19.0, 37.5, および53mm網ふるい、コンクリート舗装用粗骨材では9.5, 16.0, 19.0, 26.5, 37.5および63mm網ふるい。																																																																																																														
P.[2]-41 23行目	気乾状態のもので、9.5mm網ふるいを通過する……	気乾状態のもので、アスファルト舗装用粗骨材は2.36mm、コンクリート舗装用粗骨材は9.5mm網ふるいを通過する……																																																																																																														
P.[2]-41 25行目	2) 四分法又は試料分取器で表-A007・1に示す質量になるまで取区分する。	削除																																																																																																														
P.[2]-41 26行目	3)	2)																																																																																																														
P.[2]-41 27行目	行い、表-A007・2に示す各粒度範囲に区分する。	行い、アスファルト舗装用粗骨材では表-A007・1に、コンクリート舗装用粗骨材では表-A007・2に示す各粒度範囲に区分する。																																																																																																														
P.[2]-41 28行目	各粒度範囲は表-A007・2に示す質量以上の……	各粒度範囲は表-A007・1および表-A007・2に示す質量以上の……																																																																																																														
P.[2]-42 表-A007・1	表-A007・1 採取試料の質量	<table border="1"> <caption>表-A007・1 試験に必要な試料の質量 (アスファルト舗装用)</caption> <thead> <tr> <th>ふるい呼び寸法で区分した粒径の範囲 (mm)</th> <th>試料の質量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2.36~4.75</td><td>50g 以上</td></tr> <tr><td>4.75~13.2</td><td>200g 以上</td></tr> <tr><td>13.2~19</td><td>1kg 以上</td></tr> <tr><td>19~37.5</td><td>3kg 以上</td></tr> <tr><td>37.5~53</td><td>6kg 以上</td></tr> </tbody> </table>	ふるい呼び寸法で区分した粒径の範囲 (mm)	試料の質量	2.36~4.75	50g 以上	4.75~13.2	200g 以上	13.2~19	1kg 以上	19~37.5	3kg 以上	37.5~53	6kg 以上	表全体の差し替え																																																																																																	
ふるい呼び寸法で区分した粒径の範囲 (mm)	試料の質量																																																																																																															
2.36~4.75	50g 以上																																																																																																															
4.75~13.2	200g 以上																																																																																																															
13.2~19	1kg 以上																																																																																																															
19~37.5	3kg 以上																																																																																																															
37.5~53	6kg 以上																																																																																																															
P.[2]-44 表-A007・3	骨材の安定性試験	粗骨材中の軟石量試験																																																																																																														
P.[2]-45 図-A008.1	b:短径… ℓ:長径…上記の平行線間で、短径に対して	b:短径… ℓ:長径…上記の平行線間で、短径に対して																																																																																																														
P.[2]-109 6行目	D005・2	A023・2																																																																																																														
P.[2]-109 12行目 式 (A023・3)	$G = \frac{T}{d_s} \times 100$ 又は $G = \frac{T}{d_s} \times (100 - Q)$ (A023・3)	$G = \frac{T}{d_b} \times 100$ 又は $G = \frac{T}{d_s} \times (100 + Q)$ (A023・3)	2011/03/17追加																																																																																																													
p.[2]-118 表-A041・3	(針入度の欄) 50以上200以下	50以上300以下	2012/11/16追加	6刷りで修正済み																																																																																																												
p.[2]-118 表-A041・4	(許容差の欄) 1	4	2012/11/16追加	6刷りで修正済み																																																																																																												
p.[2]-175 5行目	水溶液で揮発性の溶剤	水溶性で揮発性の溶剤	2012/11/16追加	6刷りで修正済み																																																																																																												
p.[2]-175 14行目	次いで気泡が入らないように	次いで栓を気泡が入らないように	2012/11/16追加	6刷りで修正済み																																																																																																												
p.[2]-175 下から10行	内側を水	外側を水	2012/11/16追加	6刷りで修正済み																																																																																																												

訂正箇所	誤	正	備考	増刷りに反映 (空欄は6刷以前 で修正済み)
P.[2]-199 表-A051・3 下から4行目	同一サイズメンバー粘度計	同一サイズ ナンバ メンバー粘度計	3箇所あり	
P.[2]-248 4行目	A, B, C, D, F, A	A, B, E		
P.[2]-248 10行目	W ₁	(W ₁ +W ₂)		
P.[2]-248 13行目	A, B, C, D, F, A	A, B, E		
P.[2]-280 9行目	mσ _f	σ _f		
P.[2]-282 10行目	試験面からの直径が2mm	試験面からの 厚さ が2mm		
P.[2]-292 9行目	A063T ポリマー改質アスファルト	A063T (B)(D) ポリマー改質アスファルト		
p.[2]-295 下から4行目	最大曲げ応力(δ)×最大曲げひずみ(ε)	最大曲げ応力(σ)×最大曲げひずみ(ε)	2012/11/16追加	
P.[2]-312 3行目	式(A072・1)	式(A072・2)		
P.[2]-315 5行目	付着被皮膜	付着 被 膜		
P.[2]-321 下から2行	式(A076・1)	式(A077・1)		
P.[2]-372 上から7行目	10cm	10 mm		
P.[2]-372 下から4行目	100mm	10 mm		
第3分冊				
P.[3]-9 12行目	180±	180± 20		
p.[3]-17 英文タイトル	Raveling	Ravelling		
p.[3]-18 下から1行目	…ボルト締めとし、3組用意する。	…ボルト締めとし、 2 組用意する。		
p.[3]-29 下から5行目	N:測定点の数	n :測定点の数		
P.[3]-30 7行目	表-B002・4	表-B002・ 3		
P.[3]-44 9行目から12 行目	その後、供試体表面にゴム板を敷き、25往復転圧する。この回数は、締固め度100%の密粒度アスファルト混合物の場合である。転圧回数は混合物の種類に応じて転圧回数と締固め度の関係を確認し、決定することが望ましい。	その後、供試体表面にゴム板を敷き、 再転圧してマーシヤル安定度試験によって求められた基準密度の100±1%の締固め度 になるように締固める。		
P.[3]-50 2行目 式 (B003・3)	変形率(RD) = $\frac{15}{d_{60}-d_{45}}$ (B003・3)	動的安定度(DS) = $\frac{15}{d_{60}-d_{45}} \times 42$ (B003・3)	2011/03/17追加	
P.[3]-95 下から11行目	3) 既設アスファルト混合物の性状調査供用中の舗装体から	3) 既設アスファルト混合物の性状調査 供用中の舗装体から………	「…性状調査」の後で改行	
P.[3]-113 下から7行目	要数回転させた後	所定回数を 回転させた後		
p.[3]-130 4の(1)の3)	3) 混合および締固め温度の決定アスファルトの動粘度が	3) 混合および締固め温度の決定 アスファルトの動粘度………	「…締固め温度の決定」の後で改行	
p.[3]-199 上から11と 12行目	W _f ' と W _c '	w_f' と w_c'	wは小文字	
P.[3]-220 5.(1)2)	最大寸法の4倍以上、かつ、150mm以上…	最大寸法の4倍以上、かつ、 100mm 以上…		
P.[3]-223 B062 3. (1)1)	試験機は、「JISに…」に規定のある1等級以上の等級に規定する1等級以上のものとする。	試験機は、「JISに…」に規定のある1等級以上のものとする。		
P.[3]-235 表B064・1	(曲げ強度4.4のときの圧縮強度の数値)35	34		
p.[3]-235 表-B064・1	ft=(fh/2.21) ^{1.00}	ft=(fh/2.21) ^{1.40}		
P.[3]-236 表B064・2	表B064・1	表B064・ 2		
P.[3]-270 上から2行目	B041 フレッシュコンクリートの試料採取方法	B061 コンクリートの強度試験用供試体の作製方法		
P.[3]-273 式(B070・3)	NN = $\log \frac{\log N_1 + \log N_2 + \dots + \log N_m}{m}$	NN = $\frac{\log N_1 + \log N_2 + \dots + \log N_m}{m}$		
P.[3]-280 (4)測定材齢	…24週(半年), 36週, および48週(1年)	…26週(半年), 36週, および 52 週(1年)		
p.[3]-401 4.(1) 上から 4行目	直径をスケールで22箇所測定し	直径をスケールで 2 箇所測定し		
p.[3]-404 3.(3) 図-C045・1	次変位量(1/100cm)	削除する		
第4分冊				
P.[4]-81 F001の全般	試料調製方法	試料調整方法		
P.[4]-168 図-F034.3	(左下の文章中)固液比1:10の媒水中に浸漬	(左下の文章中)固液比1:10の 純 水中に浸漬		
P.[4]-186 5行目	深さ250±mmの容器とする。	深さ 200±1 mmの容器とする。	2012/11/16追加	6刷りで修正済み
P.[4]-186 図-G021・2	(深さ方向の矢印上)250±1	200±1	2012/11/16追加	6刷りで修正済み
P.[4]-201 表-G021・4	I. ジャーとピロメータトップとの体積の校正	I. ジャーと ピクノメータ トップとの体積の校正		
P.[4]-229 タイトル	実施場所の記号 (S)	(D)		
P.[4]-235 18行目	G027・3	G027・ 4		
P.[4]-250 表-G028・1 左1列1行目	芳香族臭気	溶剤名称		
P.[4]-250 表-G028・1 左1列2行目	芳香族臭気	化学式		
P.[4]-250 表-G028・1 左1列3行目	芳香族臭気	臭い		
P.[4]-250 表-G028・1 左5列2行目	CCl ₂ =Cl ₂	CCl ₂ = CCl₂		
P.[4]-250 表-G028・1 注釈1行目	KB値・カウリブノール値	KB値:カウリ ブ ノール値		
P.[4]-250 表-G028・1 注釈2行目	HR3は400mg/kg以下でLD ₅₀ 。HR2は400~4000mg/kgでLD ₅₀ 。HR1は……	HR3は400mg/kg以下でLD ₅₀ 。HR2は400~4000mg/kgでLD ₅₀ 。HR1は……		
P.[4]-284 図-G032・3 横軸	反発度数	反発度 R		
P.[4]-294 14行目	「C003 骨材のふるい分け試験方法」	「 A003 骨材のふるい分け試験方法」		
P.[4]-295 7行目	「B015 製鋼スラグアスファルト混合物の	「 B014 製鋼スラグアスファルト混合物の		
P.[4]-299 表-付003.1 下から4行目	40~10	40~ 20		

訂正箇所	誤	正	備考	増刷りに反映 (空欄は6刷以前 で修正済み)
P.[4]-303 表-付004.3 種類の欄	粗骨材	細骨材		
P.[4]-304 表-付004.5 高炉スラグ細骨材の単 位容積質量の欄	1.45以下	1.45以上		
P.[4]-305 表-付004.7 種類の欄	粗骨材	細骨材		
P.[4]-307 下から8行目	C004 硫酸ナトリウムによる安定性	A004 硫酸ナトリウムによる骨材の安定性		
P.[4]-326 表-付031・1	(水和熱、普通ポルトランドセメントの2項の)注2)	削除		
P.[4]-326 表-付031・2	超早強ポルトランドセメント	超早強ポルトランドセメント		
P.[4]-329 11行目	「付036 超速硬セメント」	「付034 超速硬セメント」		
P.[4]-329 表-付031・4	31日	91日		
P.[4]-332 表-付032・3	Fe ₂ O ₂	Fe ₂ O ₃		
P.[4]-332 表-付032・4	比表面積 (cm ² /g)	比表面積 (cm ² /g)		
P.[4]-334 表-付032・4	31日	91日		
P.[4]-334 表-付033・3 と4の2表	表が逆	入れ替える		
P.[4]-335 表-付034・2 1行目	圧縮強さ (kgf/cm ²)	圧縮強さ (MPa)		
P.[4]-337 表-付035・2	FeO ₂	Fe ₂ O ₃		
P.[4]-337 表-付035・2	TO ₂	TiO ₂		
P.[4]-337 表-付035・2	P ₂ O ₂	P ₂ O ₅		
P.[4]-337 表-付035・2	MhO	MnO		
P.[4]-337 表-付035・3	31日	91日		
P.[4]-340 表-付041・3 14行目左3列目～12列 4行目左13列目		—	空欄に—を入れる	
P.[4]-340 表-付041・3 4行目左14列目		0.1以下		
P.[4]-340 表-付041・3 4行目左14列目		0.2以下		
P.[4]-340 表-付041・3 4行目左2列目～11列目		—	空欄に—を入れる	
P.[4]-340 表-付041・3 左1列4行目	ブリーディング量の差 m ³ /cm ²	ブリーディング量の差 cm ³ /cm ²		
P.[4]-347 表-付045・4		5.5を追加		
P.[4]-347 表-付045・4	21	22		
P.[4]-347 表-付045・6	径、偏または対辺距離の・・・	径、辺または対辺距離の・・・		
p.[4]-374 7行目2箇所	トラックアジテータ	アジテータトラック		
p.[4]-378 14行目	反射率するなど	反射率など		